

特集
Preconception Care
—健やかな母子となるための最新トピックス—

女性の健康とプレコンセプション(3)
感染症

森實 真由美／山田 秀人

Summary

妊娠前から注意すべき感染症には、不妊につながる感染症、母子感染をきたす感染症がある。しかし妊婦の多くは先天性感染をきたす感染症について、十分な知識をもっていない。今後妊娠をする可能性のある女性や家族にカウンセリングや教育を行うことで先天性感染を減らすことが期待できる。

現在梅毒が流行しているが、無治療であれば、梅毒感染妊婦の69%に有害事象が生じる。梅毒は無症状のことがあり、皮疹も非特異的である。梅毒をいかに診断し適切な治療を行うかが重要な課題である。

Key words

先天性感染

サイトメガロウイルス(CMV)

梅毒

Mayumi Morizane

神戸大学大学院医学研究科外科系講座産科婦人科学分野
講師

Hideto Yamada

神戸大学大学院医学研究科外科系講座産科婦人科学分野
教授

はじめに

妊娠前から注意すべき感染症には、不妊につながる感染症、母子感染をきたす感染症がある(表1)。これらの疾患の多くは、知識があればある程度感染を防ぐことが可能である。当科を受診した18歳以上の妊婦(中央値34歳, 19~45歳)343名に対して行った調査では母子感染をきたす疾患のうち、ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus ; HIV)や風疹については80%近くの妊婦が知っていたが、ヒトパルボウイルス B19 やサイトメガロウイルス(cytomegalovirus ; CMV)について知っている妊婦は少なかった(図1)。また感染経路、胎児感染を起こしやすい時期、感染の予防方法についての知識は十分とはいえなかった¹⁾。これから妊娠をする可能性のある女性やその家族を対象にカウンセリングや教育を行うことで、先天性感染を減らすことが期待できる。本稿では、サイトメガロウイルスと最近流行している梅毒について述べる。

サイトメガロウイルス

CMV は TORCH 症候群のなかで最も高頻度に胎児感染を起こし、一部の児に神経学的な後遺症をもたらす。CMV は唾液や尿などの体液を介して感染するが多くの場合は不顕性感染であり、潜伏感染を成立させたあと、宿主に終生寄生する。潜伏感染成立後でも免疫抑制、炎症、感染、ストレスなどによる再活性化や再感染が起こりうる²⁾。妊